

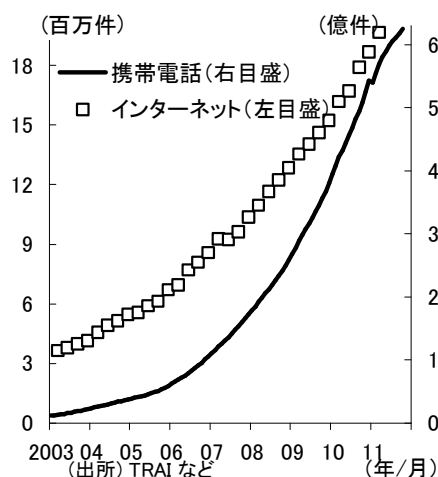


## 南部に広がるインドの経済成長

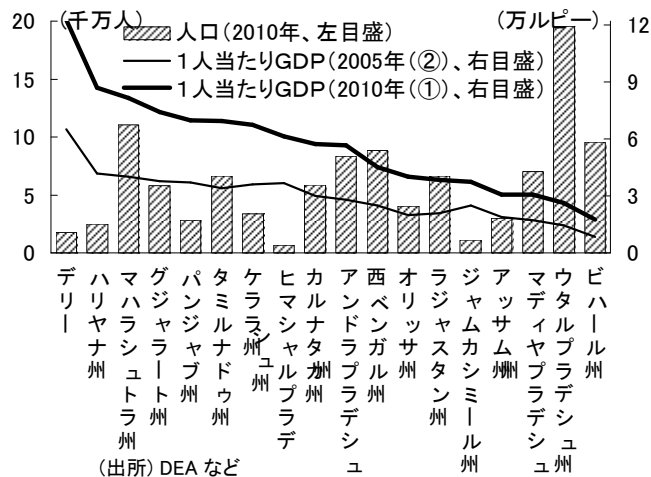
～ デリー、ムンバイに加わる南部3州 ～

- (1) 2008年以降、急増を遂げてきたインド携帯電話市場に変調（図表1）。昨年末には前月比17百万件のペースで契約件数が増加。しかし本年に入り同10百万件前後に鈍化。本年8月から同6百万件前後。総数6.3億件。ほぼ2人に1台まで普及するなか、増勢は昨年末比3分の1へ。
- (2) さらに増勢鈍化に地域別バラツキ（図表2）。全体に対する前年比増加寄与度を本年1～10月と昨年対比すると、とりわけビハールやタミルナドゥ、マディヤプラデシュ、オリッサ4州の落ち込みが深刻。タミルナドゥを除く3州は総じて低い所得水準（図表3）。加えて3州はインド各州のなかで依然電力需要の伸びが小さいなど成長ペースが緩慢。中間層の形成が遅れ購買力の増加が低迷するなか、金利引き上げや物価上昇に伴う景気変調に直撃。一方、タミルナドゥ州は06～08年に他州に先駆けて大幅に増加した反動。
- (3) 低調な諸州に対して鈍化幅が小さく総じて好調を持続する諸州も。大別すれば①これまで後進地域として所得水準が低かったものの、このところ企業進出が増え経済発展が本格的に始まったウタルプラデシュ州、②タミルナドゥ州を追い掛け、本年に入り成長ペースが加速するアンドラプラデシュとカルナタカの南部2州、③所得水準が高く、消費主導の経済成長が広がるデリーやハリヤナ州、あるいはムンバイやマハラシュトラ州の都市圏、が牽引役に。一方、インターネット契約件数は昨年末以降、携帯電話の動きとは逆に増勢加速（図表1）。都市圏や南部3州が中心の模様。これまでインド経済を牽引してきたデリー、ムンバイ都市圏に加え、南部3州が成長の原動力となる構図が今後、一段と鮮明に。

（図表1）携帯電話とネット契約総件数



（図表3）州別人口とGDP



（図表2）エリア別携帯電話契約件数

